

内容発表

日本科学未来館の常設展、大リニューアル(平成 28 年春)

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利衛)は、開館 15 周年を迎える平成 28 年に常設展を大きくリニューアルします。展示の新設や既存スペースの整備のほか、シンボル展示 Geo-Cosmos(ジオ・コスモス)とドームシアターにも新しいコンテンツを投入。また、来館者をさらに安全にお迎えするため、展示等の耐震対策を行うなど、常設展の総面積の半分近くのエリアが新しくなります。

平成 13 年の開館以来、累計 1100 万人(昨年度 146 万人)を超す来館者をお迎えしてきた未来館は、近年とくに海外からの来館者や来賓も多く、国内外における先端科学技術の発信、交流拠点として活動しています。このたびのリニューアルは、科学技術をとりにく環境の変化に対応するとともに、これからの科学館が果たすべき役割を視野に入れたものです。知識や情報を与えるのみならず、来館者一人ひとりに科学技術の未来を考えてもらい議論を促すことで、私たちの社会や地球をめぐるさまざまな課題の解決に貢献していく場となることを目指します。来年春の新生・未来館に、どうぞご期待ください。

■公開日

平成 28 年 4 月 20 日(水)

■リニューアル記念無料開放

平成 28 年 4 月 20 日(水)～4 月 24 日(日)は、リニューアル記念として、常設展入場とドームシアターの鑑賞が無料となります

■リニューアル概要(詳細は次ページ)

〔新設〕

常設展「地球で暮らすリスクと向き合う(仮)」、「未来のノーベル賞(仮)」、常設展エントランス新演出、Geo-Cosmos インタラクティブコンテンツ、ドームシアターコンテンツ「9 次元からきた男」

〔整備〕

常設展「2050 年くらしのかたち」、5 階および 3 階ステージ、「オピニオン・バンク」

■工事に伴う一部展示エリアの閉鎖について

〔閉鎖する展示エリアと閉鎖期間〕

- ・5 階常設展内の「宇宙」(「こちら、国際宇宙ステーション」のみ)
平成 27 年 11 月 18 日(水)～平成 27 年 12 月 14 日(月) (※12 月 16 日(水)より再公開します)
- ・5 階常設展内の VR シアター、3 階常設展内の「ロボット」(アンドロイド除く)
平成 27 年 12 月 16 日(水)～平成 28 年 4 月 18 日(月)
- ・5 階常設展内の「宇宙」(「こちら、国際宇宙ステーション」除く)、「太陽系」、「地球」、3 階常設展内の「くらし」
平成 28 年 1 月 13 日(水)～平成 28 年 4 月 18 日(月)

※上記期間も、休館日および開館時間に変更はありません。

■工事期間中の ASIMO 実演について

3 階常設展「ロボット」エリアが閉鎖される下記期間中、ヒューマノイドロボット ASIMO の実演は、1 階シンボルゾーンおよび企画展示ゾーンにて実施します。

平成 27 年 12 月 16 日(水)～平成 28 年 4 月 18 日(月)

(平成 28 年 4 月 20 日(水)からは、3 階ステージにて実施します。)

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 事業部 展示企画開発課 広報普及担当 EMAIL: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

〔新設・整備展示 概要〕

■常設展 5階「世界をさぐる」、3階「未来をつくる」

① 新規展示「地球で暮らすリスクと向き合う(仮)」

地震、噴火、台風など、日本に住んでいる私たちの周辺には自然災害によるハザード(リスクの原因)が昔からたくさんあります。さらに、人類の活動範囲が拡大したり、その活動が地球に影響しはじめたりしたことで、局地的豪雨やスーパー台風などの気象現象、エボラ出血熱やデング熱など国境を越えて広がる感染症といった、新しいハザードも生まれようとしています。人間社会を地球の一部としてとらえ、ハザードが生まれるしくみやリスクを減らす取り組みへの理解を深めながら、地球で暮らすリスクとの向き合い方をともに考えます。

総合監修: 毛利衛(日本科学未来館館長、宇宙飛行士)

監修: 田近英一(東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)、岸本充生(東京大学公共政策大学院 政策ビジョン研究センター 特任教授)

② 新規展示「未来のノーベル賞(仮)」

未来のノーベル賞はどんな研究に与えられるでしょう? これからの地球や人類に貢献する科学技術について、来館者、科学コミュニケーター、ノーベル賞受賞者たちとともに考えるコーナーです。

③ 常設展エントランスの新演出

展示リニューアルに際し、常設展の出入口エリアが大きく変わります。よりわかりやすい出入口になるとともに、展示へと誘う高揚感と、「自分自身で問いを見つけ、解決へと動き出そう」というメッセージを演出します。

④ 「2050年くらしのかたち」の整備

未来の理想のくらしを出発点に問題解決をする視点と、現在のくらしの問題解決をする延長線上に未来を描く視点。この二つの視点で科学技術と社会の関係について考えることが、今必要とされています。今回のリニューアルでは、体験者は、二つの視点と科学技術を使いこなしながら、ダイナミックに未来社会をつくる体験ができます。

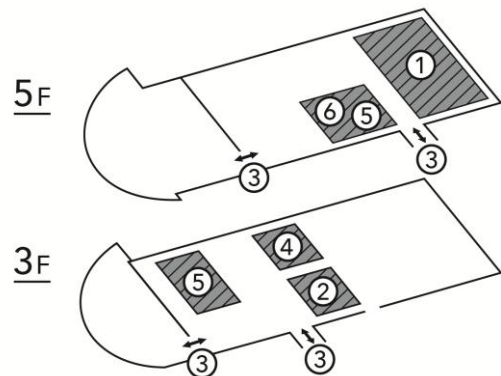
総合監修: 大垣眞一郎(公益財団法人 水道技術研究センター 理事長)

⑤ ステージの整備

3階 Geo-Cosmos の目の前の広い空間が、さまざまなデモンストレーションを行うライブステージに生まれ変わります。照明や音響環境を整備し、ヒューマノイドロボット ASIMO の実演や Geo-Cosmos のコンテンツを使った実演を、より印象的なステージパフォーマンスとして見ていただくことができますようになります。また5階には、科学コミュニケーターが各種実演を行うためのステージを新設します。

⑥ オピニオン・バンクの拡充

科学技術を取り巻く問題について来館者が意見を発信するオピニオン・バンクにおいて、科学コミュニケーターの各種実演と連動したり、研究者や社会の仕組みづくりに関わる人たちを巻き込んだりしながら、活発な議論や意見交換など、双方向のコミュニケーションを展開します。



■シンボル展示 Geo-Cosmos 新規インタラクティブコンテンツ

シンボル展示 Geo-Cosmos をより深く体験できるコンテンツが登場します。新しく設置される展示端末を使い、パーソナルな Geo-Cosmos に、見たいデータを自由に表示したり、操作したりすることができますようになります。地球全体の科学データと自分の生活とのつながりを感じさせるコンテンツ、世界中の情報空間と人間とのつながりを可視化するコンテンツなど、地球上のさまざまなつながりを共有するためのコンテンツが揃います。

■ドームシアター 新規コンテンツ「9次元からきた男」

物理学の究極の目標である「万物の理論」をテーマにした、世界初の3Dドーム映像作品。素粒子のミクロ世界と、宇宙のマクロ世界をあらわす二つの理論は矛盾しており、理論物理学者たちはそれらを統一する「万物の理論」を見つけようとしています。その最も有力な仮説である「超弦理論」が提示する、驚きの世界とは?

演出を手がけるのは、『呪怨』や『魔女の宅急便』などで知られる映画監督の清水崇氏。難解な数式で表現される理論物理学の最前線を、エンターテインメント性あふれる実写と精緻な CG・データビジュアライゼーションを融合させた、かつてない映像で体感していただけます。

監修: 大栗博司(カリフォルニア工科大学 教授・理論物理学研究所 所長/東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 主任研究員)